

## 「フード台北 2018」に参加して

歐元韻

### ＜日本食品は依然として人気が高い＞

既にご存知の方も多いと思いますが、毎年6月に台湾で開催されております台湾最大の国際総合食品見本市「フード台北」に今年も参加してきました。第28回目を迎える今年の見本市での出展ブース数は2197ブース（1079社）にも上り、日本企業は台湾パビリオンに次ぐ116社もの企業が参加し、大いに盛り上がりました。

「ジャパンパビリオン」での出展企業数は昨年度を上回り、入場者に日本の水産品、農産物、和牛、お酒等をPRしていました。その内、目についただけでも10社近くの広島県企業が、ジェトロが管理する「ジャパンパビリオン」と台湾大手電機メーカー東元グループが管理する「安心フードパビリオン」を中心に、それぞれ出店されていました。



（広島県企業の展示商品）

### ＜進化する台湾食品＞

台湾の人達からみた日本製食品は総合的に美味しく、安全かつ高品質と好印象なことばかりですが、そのためお値段の方も多少高めというところが一般的です。但し、日本でも同様だとは思われますが、今回の様な食品見本市やデパートでの催事では日本製商品（特に食品類）は何時もイベントの目玉として消費者及び食品業者から好評を博し、多少高額でも喜んで購入されるお客様が結構おられます。

さて、今回その様な中で、個人的に特に注目したのは、台湾の各地方の地産商品を取り扱っていた「台湾パビリオン」です。ここ数年の間に台湾製食品のレベルも飛躍的に向上したと思われれます。「台湾パビリオン」では高雄、台南、嘉義等における地方の各種名産品が展示されており、ここで紹介されております農産加工食品等は、海外での販売も視野に入れたギフト商品として開発されたものが中心で、少しオーバーな表現ですが、ひと昔前の台湾製品と

比較するとその変化の様に隔世の感を禁じ得ないということが正直な感想です。また、業界関係者の方々が台湾に再びスポットを当ててくださった関係だとは思いますが、この機に乗じて日本進出を果たした台湾企業も幾つかございます。最近でも台湾伝統のスイーツ販売店（旅行ガイド誌には日本人女性達に人気の店として紹介）が日本企業とのジョイントにより日本市場に進出しております。

### ＜台湾では外食はレジャーの一つ＞

話を「フード台北」に戻しますが、出展されていた日本の企業の方々の中には自社製品の紹介、販売以外にも会場で台湾産の鰻に着目され、新たなビジネス構想のヒントを得られて帰国された方もありました。確かに自社製品の商談が最優先ですが、会場内をじっくり見て回るだけでも様々なビジネスチャンスに繋がるヒントを生み出してくれる台湾が誇る有数の見本市だと思えます。また、今回の「フード台北」では台湾の老舗食品メーカーが流行りの外食企業とコラボし新商品を開発する等、新しい動きも見受けられました。台湾では外食は一つのレジャーとして考えられており、週末での一家総出の外食や若い人達の外食行為には強い娯楽性を伴う傾向が日本より遥かに強いと思えます。そのため、台湾の外食産業では常に新しいモノ、新しい流行を求められます。



（東元グループの安心食品フードパビリオン）

今回の参加企業である電機メーカー大手の東元（TECO）グループは早くから外食分野に進出しておりますが、ここに来て他の家電大手メーカーもショッピングセンターや住宅商業複合エリアの開発に着手しているとの事です。日本から見れば台湾は小さな市場かもしれませんが、まだまだ潜在的未開発市場が残されており、そこに求められるのは、台湾の人達を幸せにしてくれる日本の美味しい食べ物だと思います。広島からも台湾の人達に美味しい食べ物が届けられることに強く期待しております。